

すく、遊戯と連携できるように工夫。題目は尋常科では主として修身、読書に関するものや四季の風物に因んだもの、高等科は地理、歴史、理科等の教科に関するもの。歌詞は小学教育に従事した者の作を多用し、我が国古来の童謡で教育的価値のあるものは国民感情養成の助けとして採用。欧米人の作曲で我国児童に適したものを交えて広く音楽上の趣味を添える。

これらは、基礎的なものを重視し、段階的教材に進む伊沢修二(1851-1917)のペスタロッチ式理論と、当時の教育学者谷本富(1867-1946)が説いた「唱歌も教科統一の本義に沿って他の教科と密接な関係を持たせるべき」という理論に、いち早く田村虎蔵が自説の言文一致唱歌を結びつけ開花させた。

国立国会図書館サーチによれば、公共図書館では、当館のほか鳥取県立図書館において本書初編中・下巻、二編上巻(いずれも1903年刊の訂正版)の所蔵が確認できる。

■ 作者

納所弁次郎は明治から昭和期の唱歌教育者、作曲家。唱歌教育の開拓者で、言文一致唱歌を提唱。小学校唱歌や軍歌など多くを作曲。

田村虎蔵は東京高等師範学校、東京音楽学校教授を長くつとめ、音楽教育に尽力した。言文一致唱歌を提唱し、納所弁次郎らと『幼年唱歌』『尋常小学唱歌』などを編集。詳細は人物コラム4(p.26)参照。

■ 言文一致唱歌

明治初期に書き言葉と話し言葉を一致させ、日常の思想や感情を的確に表現して、誰にでも分かる文章を書こうとする文体革新運動が展開された。文学の側で興ったこの運動が唱歌にも及び、田村虎蔵は自ら言文一致唱歌を作り、教育現場で実践した。(＃9「言文一致唱歌」解説「言文一致(運動)」(p.33)も参照のこと)

♪ 参考文献

- ・『童謡の父 石原和三郎先生』大槻三好著 郡馬出版社 1955 [911.58/138]
- ・『石原和三郎と明治唱歌抄』大槻三好著 講談社出版サービスセンター 1977 [767.6/161]

- ・『言文一致唱歌の創始者田村虎蔵の生涯』丸山忠璋著 音楽之友社 1998 [289.1/3665]
- ・山田めぐみ『『教科適用幼年唱歌』のなかにみられる田村虎蔵の唱歌教材観：曲節の分析を通して』（『音楽文化教育学研究紀要』27号 広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座 2015）[Z375/507]